

岐垣國道改築工事概要

岐阜縣土木課長 櫻井哲三

(1) 岐垣國道

一、沿革

本國道改築工事區間は、東京市より名古屋を経て石川縣廳に達する國道十二號線中岐阜市本莊、稻葉郡加納町立會を起點とし大垣市藤江町に至る區間にして産業交通上重要な路線の一部なり。

岐阜、大垣兩市は夙に風光明媚と、豊なる史蹟とを以て其名高く氣候溫和にして四時遊覽客絶えず。商業は年と共に發展し愈々繁劇を加ふるに至れり。然るに此の兩市を連絡する國道は幅員狭少にして屈曲多く、見透困難なるのみならず、岐阜市本莊及大垣市抹の二箇所に於て東海道鐵道本線と平面交叉をなすの狀況なり。而かも本路線中、長良揖斐の二大川に架する橋梁は何れも腐朽し、交通機關の變遷は到底舊時の狀態を以て許さざるものあり。

然して世界大戰後引續きたる經濟界の不況は各種事業の萎微梗塞を來し、之れが爲め労働者の失業するもの年を遂うて多數となり、昭和五年九月現在に於ける縣下失業者は東濃窯業地を始め、岐阜、大垣兩市を中心として縣下一圓に五千百二十一人、其の内救済を必要とする日傭労働者の推定は三千二百餘人の多數を算するに至れり。本縣は之れが匡救策とし昭和五年十月臨時縣會の議決を経て失業救済の爲め他事業に比し、一般失業労働者を容易に就勞せしめ得る道路改築事業を興し、救済に力むることゝしたり。事業執行の成績以下述ぶる所の如し。

二、事業計畫の概要

失業救済の爲め事業箇所の選擇に就ては、道路改築の見地に基き交通上最も重要な地域を選び、其の改良を有効適切なるに力め之を決定せり。即ち岐阜市本莊、稻葉郡加納町立會を起點とし、南進約 906 米岐阜市三里字六條地内に於て西南に轉じ、直進約 6,765 米稻葉郡日置江村茶屋新田より西に向ひ、永祿の昔織田信長が木下藤吉郎の獻策に

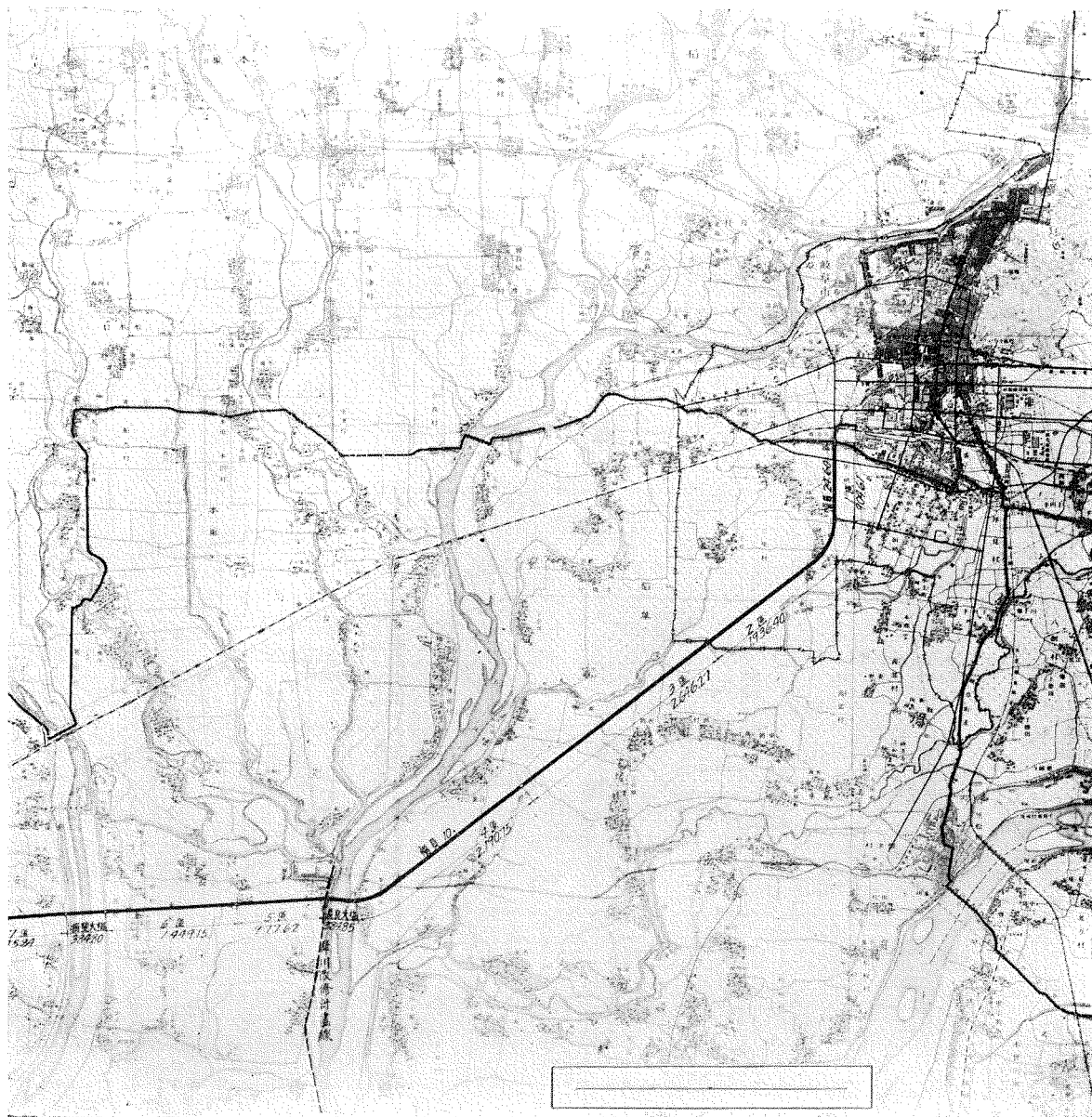


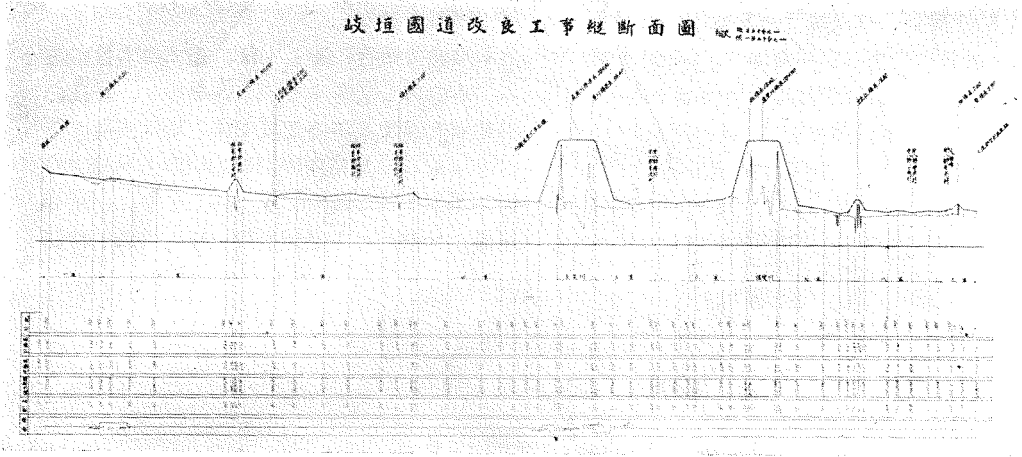
依り、砦を設けし墨俣城（一夜城跡）の下流400米の地照に於て長良川を渉り、（長良大橋延長385米）安八郡墨俣町市街地南端を過ぎ、結村役場及同小學校前を経て（此の延長2,315米90）揖斐川を渡り、（揖斐大橋延長384米80）安八郡三城村の中央位を貫き、安井村の北端を掠め（延長約2,908米）大垣市東郊藤江町を

以て終點とせり。

本事業の執行に關しては、起工の本旨に鑑み、本縣自ら直營するの方針を採り、長良、揖斐兩大橋及墨俣橋架設工事の特殊技術を必要とするもの及長良川、揖斐川間(2,315米90)道路工事は特に低地にして盛土量多く、且つ道路に接續し地方鐵道敷設工事に併行し特別

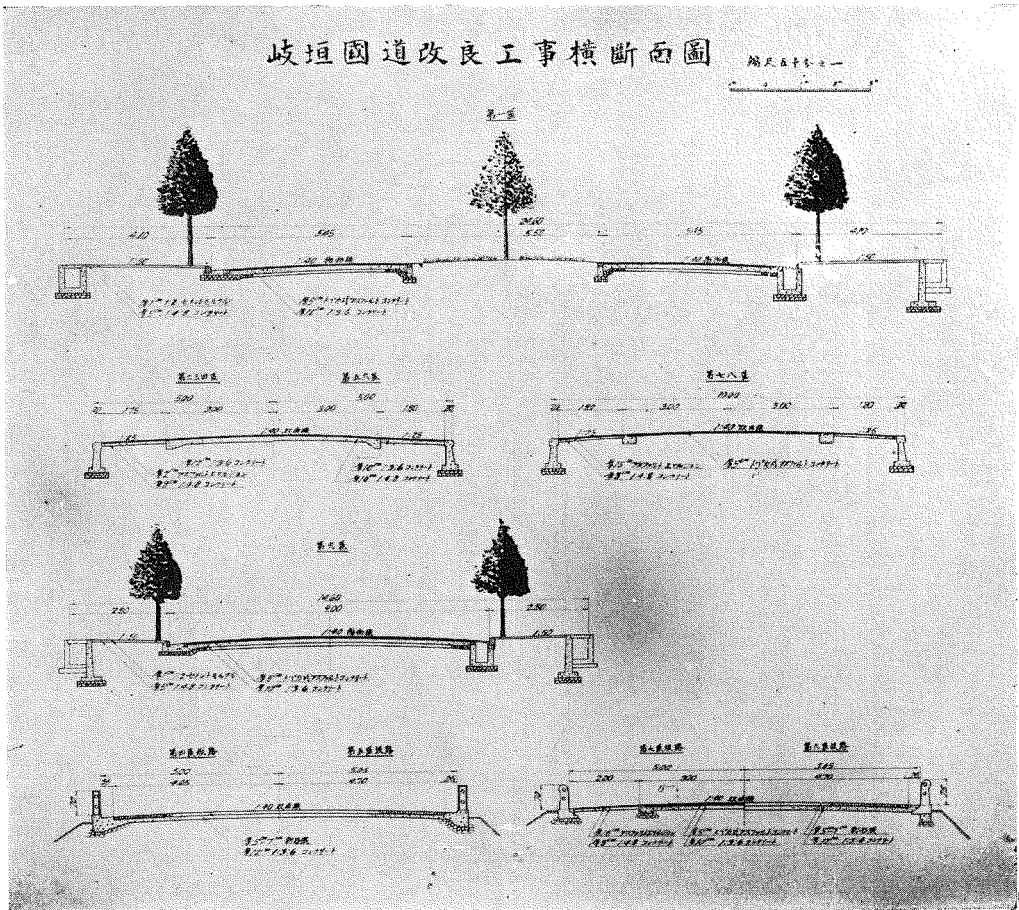
改築工事區間平面圖。

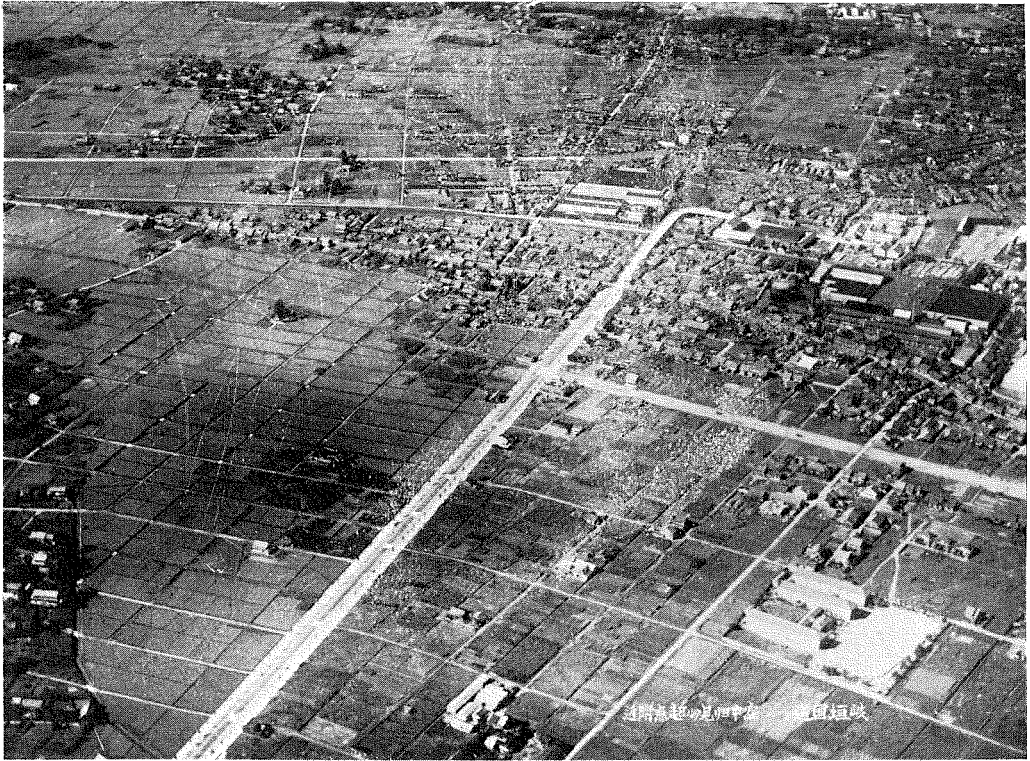




(2) 岐垣國道縱断面圖。

(3) 岐垣國道橫断面圖。





(4) 空中(500m)より見たる岐阜市起點附近。

の關係を有する地域なれば、之れ等を請負執行とし、他は全部直營を以て施行せり。尙本工事執行の主管は本縣土木課なるが、直接現場の執行機關として、道路工事を九工區に別ち、三里、萬石(三城村)大垣三修築事務所と長良大橋、揖斐大橋二架設事務所を設置し、監督の任に當らしめたり。

三、用地及地上物件移轉補償

道路改築用地買収及地上物件移轉補償價格の決定は、類地の價格、實地等を覈査審議の上之れを決定し、關係町村長を介し、土地、物件所有者と協議せり。

而して買収せる用地は岐阜、大垣兩都市計畫區域を除き、概ね田畑にして折衝も容易に、且つ前記岐阜、大垣兩都市計畫區域内の宅地と雖も圓滿に買収し、失費を省くを得たり、潰地總面積 42,793坪餘にして内田 38,151坪、畑 2,788坪、宅地 1,114坪、墓地 4坪、地沼 334

坪なり。

四、工事施行大要

路線の經過地

岐阜市本莊、稻葉郡加納町、岐阜市三里、稻葉郡鶉村、同佐波村、同日置江村、安八郡墨俣町、同結村、同三城村、同安井村、大垣市藤江町

起點及終點

起點 岐阜市本莊、稻葉郡加納町立會

終點 大垣市藤江町

延長

總延長 13,782米96

岐阜都市計畫區域(第一區) 904米61

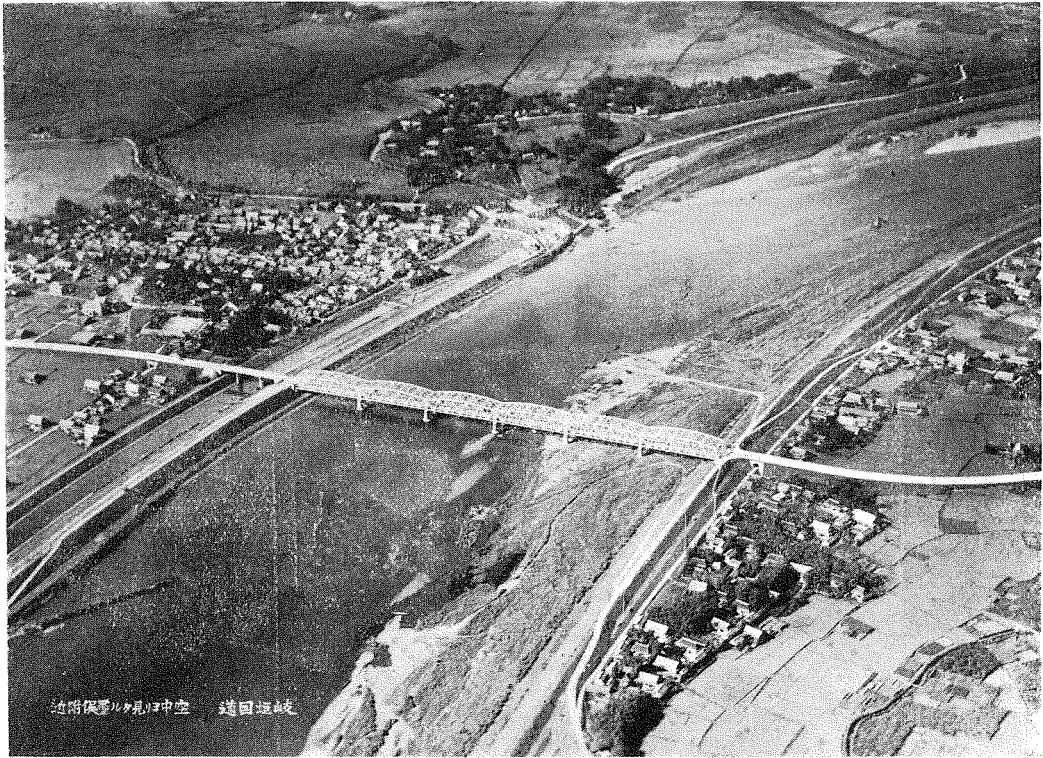
大垣都市計畫區域(第八、九區) 1,732米67

其の他(二、三、四、五、六、七區) 11,145米68

内 著大橋梁(長良、揖斐兩橋)延長769米65

道路延長 13,013米31

構造



(5) 空中(500m)より見たる墨俣町附近。

(A) 道 路

道路工事は都市計畫區域其の他の二種に別ち之れが施設をなせり。

(1) 幅 員

岐阜都市計畫區域全幅	24米60
中央植樹敷	5米50
車道(二條)	5米45
歩道(二條)	4米10
大垣市都市計畫區域全幅	14米60
車 道	9米00
歩道(二條)	2米80
其の他の區間	10米00

(2) 曲 線

道路の曲線半径は、長良大橋東詰に於て240米を最少とし、三里附近に450米のもの一ヶ所、其の他は概ね半徑1,000米以上とす。

(3) 縦 斷 勾 配

縦斷勾配は最急三十分の一、都市計畫區域内は八百分の一、其の他は四百分の一を標準

とし、地形の許す限り排水に最も有効ならしむる勾配たらしむ。

(4) 横 斷 勾 配

都市計畫區域 車道四十分の一拋物線
歩道五十分の一直接線勾配
其の他の區間 四十分の一雙曲線

(5) 法 面 勾 配

施工面の高低及地質に應じ、法面勾配を一割乃至一割五分とし、三城村の一部は長1米、幅75釐、厚6釐の混凝土方塊張とし、其の他は筋芝工を施せり。

(6) 鋪 裝

面 積 124,250平方メートル
種 類 瀝青混凝土
滲透式瀝青マカダム
粗面セメント混凝土

(7) 排 水

岐阜、大垣兩都市計畫區間の排水は、歩車道境の街渠により、雨水柵に集め沈澄して歩



(6) 空中(500m)より見たる大垣市終點附近。

道下、徑18種排水管を通して側溝に流出せしめ、其の他の區間は横斷勾配により道路外に排水し之等を暗渠圓管等にて流出せしむるものなり。

(8) 側 溝

幅45種深70種コンクリートにて築造し、人家連擔の區域は鐵筋コンクリート蓋板を架設す。

(9) 雨水枿及掃除枿

境界側溝の延長30米乃至40米毎にコンクリートを以て築造し、上縁は花崗石を用ひ鐵製蓋板を用ふ。

(10) 溝 渠

徑間2米以下の水路に架するものにして地質に應じ適當なる基礎工上に鐵筋コンクリート函渠又は圓管にて築造す。

(11) 竝 木

岐阜、大垣兩都市區域歩道内側延長10米毎にプラタナスを植栽し、尙岐阜都市計畫區域

内中央植樹地帯に銀杏を植樹し、且高麗芝をも植込たり。

(B) 橋 梁

長良、揖斐の二大川に架設せる著大橋梁の外、大小十六橋にして、長良、揖斐兩大橋を除き、幅員は何れも前後道路の幅員と一致せしめ、基礎は地形杭を以て完全に施行し、徑間が大小架設地點の狀況により夫々鋼鐵桁、構桁橋、鐵筋コンクリート橋等經濟的のものを架設す、左に主要橋梁につき述ぶ。

(1) 長良大橋

位 置

稻葉縣日置江村大字茶屋新田、安八郡墨俣町大字墨俣立會、長良川筋

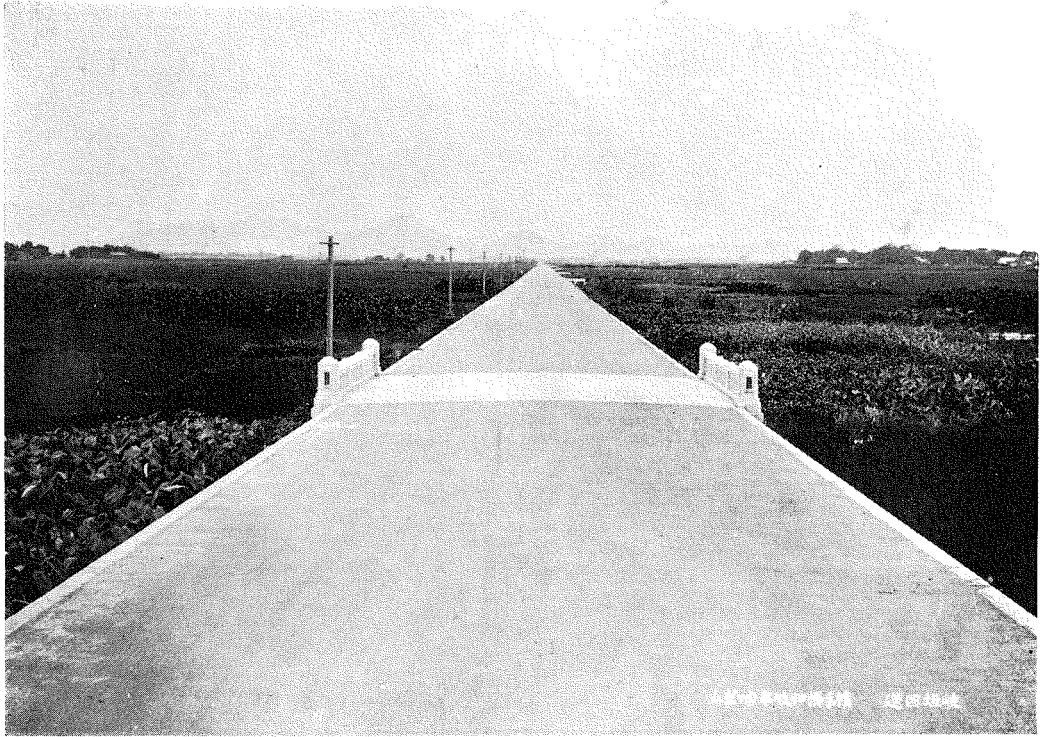
構 造

橋型 曲弦 ワーレン型

橋長 384米85

有効幅員 公道敷7米4、鐵道敷7米45

全橋有効面積 公道敷2,874平米⁸⁹、鐵道敷



(7) 稲葉郡日置江村地内、横手橋より岐阜方面を望む、幅員10m、乳剤舗装、

2,853平米66		橋脚 型式	鉄筋コンクリート拱形一基
上部構造		形状寸法	井筒上円形高7米25頂部にて長21米、幅3米
橋體	主橋體鋼材量 3,196.35噸	主要材料	鉄筋コンクリート、鉄筋145噸、コンクリート2,119立米、セメント4,358樽
	使用鉄筋量 46.86噸	井筒 型式	中空にて圓形一對、壁厚1米25、長24米
	使用コンクリート量 502立米	形状寸法	正圓二基中心距離16米、下流7米、上流6,50米(外徑)
	使用セメント量 1,004樽	主要材料	鉄筋コンクリート、鉄筋369.27噸、コンクリート577.7立米、セメント11,555樽
橋面	幅員 14米815	地質	井筒底部玉石入砂利層
	舗装材料「アスファルトブロック」	(備考)	兩橋臺に使用せる基礎杭は徑25厘米長8米のもの148本、何れも小砂交り粘土層に1米以上打込む。
高欄	鑄鐵製 114.39噸	(2) 揖斐大橋	
下部構造		佐置	安八郡結村大字西結、安八郡三城村
橋臺 型式	抹壁式倒丁形鉄筋コンクリート		
	形状寸法 長方形基礎長21米、幅8米、高15米		
	主要材料 鉄筋コンクリート、鉄筋130.3噸、コンクリート1,391.6立米、セメント2,670樽		
地質	基礎附近小砂交り粘土		



橋大良長 道國岐

(8) 岐垣國道最大の橋梁、長良大橋。

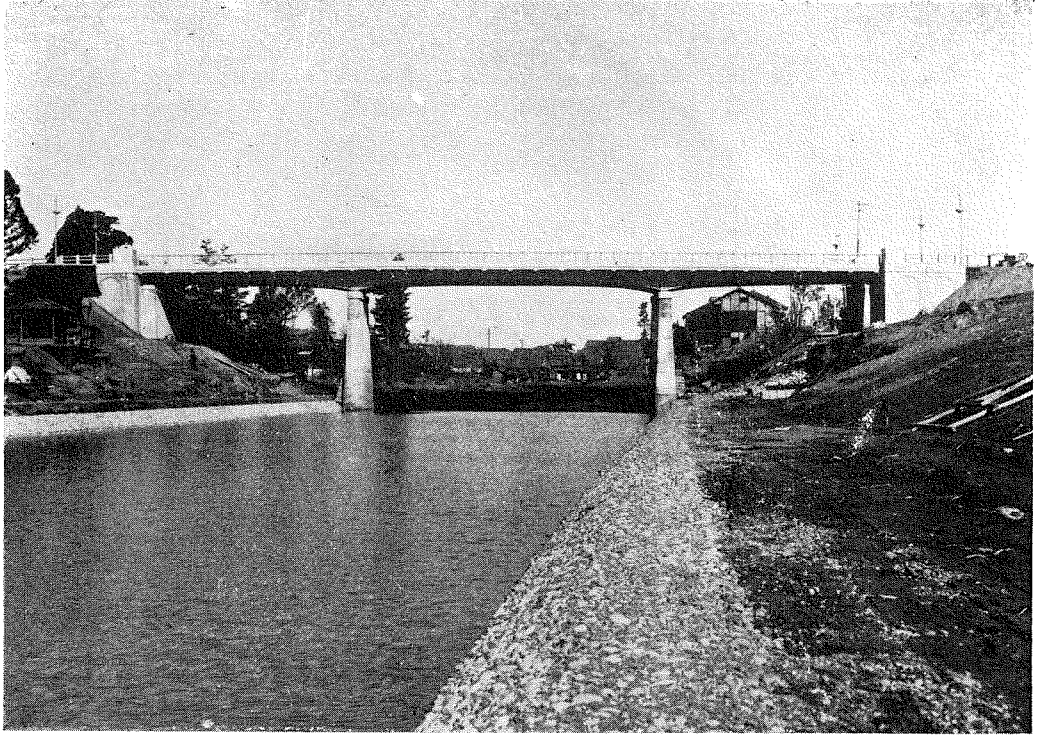
大字万石立會揖斐川筋
構造
 橋型 曲弦ワーレン型
 橋長 384米80
 有効幅員 公道敷7米4、鐵道敷7米415
 全橋有効面積 公道敷2,847平米52、鐵道敷
 2,853平米292

上部構造
 橋體 主橋體鋼材量 3,082.50噸
 使用鐵筋量 46.0噸
 使用コンクリート量 502立米
 使用セメント量 1,004樽
 橋面 幅員 14米815
 鋪裝材料「アスファルトブロック」
 2,814.1平米
 高欄 鑄鐵製 114.17噸
下部構造
 橋臺 型式 扶壁式倒丁形鐵筋コン
 リート

形狀寸法 長方形基礎長21米2、巾8米、
 高23米
 主要材料 鐵筋コンクリート、鐵筋1,414.3
 噸、コンクリート132.23立米、
 セメント2,718樽
 地質 粘土層 P.Lより5米以下は小砂
 利交り

橋脚 型式鐵筋コンクリート拱形1基
 形狀寸法 井筒上楕圓形長4.4米、上幅3米、
 下幅3.60米、高6米
 主要材料 鐵筋コンクリート、鐵筋81.7噸、
 コンクリート6,299.5立米、セメ
 ント12,598樽
 地質 井筒底部玉石入砂利層
 (備考) 兩橋臺に使用せる基礎杭徑25糎長
 8米のもの152本にして、小砂利交
 り粘土層へ1米以上打込む。

(3) 墨俣橋
 位置 安八縣墨俣町大字墨俣犀川筋



(9) 尾川に架設せられた墨俣橋

構造

橋型 ゲルバー式鋼桁橋

橋長 56米60

有効幅員 7米50

全橋有効面積 424平米50

上部構造

橋體 主橋體鋼材量 90.23噸

使用鐵筋量 7.9噸

使用コンクリート量 75.42立米

使用セメント量 150.84樽

橋面 アスファルトコンクリート鋪裝厚
5 糎

高欄 鑄鐵製 13.27噸

下部構造

橋基 床版付框構式鐵筋コンクリート
橋臺2基、高10米5、杭打基礎

橋脚 鐵筋コンクリート、橋脚2基、高
11米83、杭打基礎

本改築工事に使用せし主なる材料は次の如

し。

主要使用材料

名 稱	數 量	名 稱	數 量
砂	55,600立米	セメント	93,210樽
乳 劑	531,940立	花 崗 石	252立米
モビール油	342罐	車 軸 油	775罐
砂	29,700立米	鐵 材	8,650噸
碎 石	2,967立米	アスファルトブロック	5,626平米
重 油	69.0罐	石 油	2,326罐
礫	11,000立米	ア ス フ	268,371斤
石 粉	293,517斤	ア ル ト	
マシン油	709罐	揮 發 油	4,913罐

(以下次號)